

府中市議会 第22回議会改革特別委員会会議録

令和元年8月29日午後1時2分、議会改革特別委員会を第二委員会室において開会した。

1 出席委員

委員	長	三藤毅	副委員	長	本谷宏行
委員		加納孝彦	委員		安友正章
委員		土井基司	委員		加島広宣
委員		岡田隆行			
副議長		大本千香子			

1 欠席委員

なし

1 説明のため出席した者

なし

1 事務局及び書記

事務局長 赤利充彦 主任主事 小川愛美

1 本日の会議に付した事件

- (1) 議員報酬、政務活動費について
- (2) その他

~~~~~

午後1時2分 開会

1 議員報酬、政務活動費について

まず初めに、各会派での協議結果を確認した。

(創生会)

- ・報酬については現状維持の意見が多く、ごく少数から増額の意見があった。
- ・政務活動費については5,000円から2万円、市民の皆さんの理解を得た上でふやしたいという意見であった。
- ・報酬について、市民アンケートでは削減となっているが、府中市議会議員の現状で拘束時間や活動量を考えると専門でないと活動できないことを考えれば、生活給的な部分もあり、現在の額は必要と考える。また、今後若手のなり手が出てくることも考慮に入れている。
- ・政務活動費について、実態として持ち出しが多く、ホームページで公開されているもので計算すると5,000円以上は負担していることになっている。計上していないものも含めるともっと多く負担している実態があるため増額という意見である。

(市民クラブ)

・前回の議論で1名減に賛成はしたが、定数を減らしたら組織や団体を持たない人が議員になりにくくなるという意見が届いた。若い人や子育て世代が議員になりやすい環境づくりが必要ということで、そういった報酬の仕組みが必要と考える。

・総体として現状維持か若干減らす。基本給に対して追加で出せるものを工夫してはどうか。年金受給世代から若手に回るような仕組みは考えられないか。

・議長や委員長はほかの議員より任務があるので、インセンティブがあってもよい。

・政務活動費については、持ち出しはあるが、現在の政務活動費の枠組みでは個人負担しているものの全てが政務活動費の対象にならない場合もあるので、単純にふやしても持ち出しがカバーされないということも考えられる。ただ、活動していて少なさは感じるので、5,000円程度の増額を考えている。

(公明党)

・報酬については減額の意見である。定数が1名のみ減となったので、報酬を上げるということは考えないほうがよいのではないかと。額は確定していない。

・政務活動費においても、実態として持ち出ししている状況があり、増額したいという気持ちはあるが、報酬と絡めて考えていくべきではないか。

・子育て世代への手当があってもよいのではないかと。また、期数によって期末手当の率を上げるといったことをすれば、若い人が早めに出て長く頑張ってもらえるのではないかと。

(日本共産党)

・市民アンケートの結果は、議員の動きがわからないということの裏返しと考える。これを受けてすぐに下げるかということ、慎重に考えなければならない。

・類似団体を見てみると、全国の中では73自治体中5番目に高く、人口3万人台で見れば一番高い。それを考慮すれば、痛みを伴う必要はある。

・なり手をふやす観点でいえば、たとえば、60歳以上は5万円減らす、20代・30代には3万円ふやす、40代・50代には2万円ふやすといった意見も出た。

・政務活動費については、5,000円程度の増額で現状の持ち出しがカバーできるのではないかと。

続いて、意見交換を行った。主な意見は次のとおり。

・類団比較というよりは、定数と同じことだが府中市議会がどのような議会を目指すのかということ、市民の方にきちんと活動状況が見える形にしていくことが重要である。

・報酬の根拠が必要だということを考えると、原価方式の視点も必要であるが、各議

員の活動量はなかなか積算しにくい状況もある。今後検討していく必要はあると感じている。

・報酬を下げて政務活動費を上げるという意見もあるが、それぞれの考え方があるので別々に議論するべきだ。

・手当ではなく追加報酬なら出せるので、議長や委員長のように役割を担う職の報酬額をふやし、若い人に積極的にそういう役に就いてもらえば、現行の制度の中でもある程度手厚くできるのではないか。

・議員が自分で報酬を考えるので公平性を欠いているという前提で、報酬を減らすのはなり手不足につながるというが、30万円台でも選挙が成り立っている市もある。定数が多い、報酬が高いという市民感覚があることは否めない。それを無視して納得してもらえるのか。

・政務活動費の使途の透明性を確保するために、領収証のホームページ公開をやっていく必要がある。

・多少の変化に合わせて上下するものでもないので、長期的な視点で府中市の財政を見極めなければならない。そういう点でいえば、議員の活動は以前に比べて減っているということもなく、社会全体での賃金は名目上増えているという現状で、報酬を極端に下げるといふことにはならないのではないか。

各会派の意見を持ち帰り、会派でそれぞれの金額及び考え方を整理してくることとした。

~~~~~

○委員長（三藤毅君） それでは、次回の日程について協議いたします。

〔意見交換〕

○委員長（三藤毅君） それでは、今回は9月24日（火）13時10分から行います。

以上で議会改革特別委員会を散会いたします。

午後3時8分 散会

府中市議会委員会条例第29条第1項の規定により、ここに押印する。

令和元年10月7日

府中市議会改革特別委員会
委員長 三 藤 毅